

「蓬莱の玉の枝」テスト練習問題と過去問まとめ③

年	組	番	名前
---	---	---	----

【原文】

これやわが求むる山ならむと思ひて、
 さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりを
 さしめぐらして、二三日ばかり、見歩くに、
 天人のよそほひしたる女、山の中よりいて来て、
 銀の金鏡を持ちて、水をくみ歩く。これを見て、
 船より下りて、「この山の名を何とか申す。」と
 問ふ。女、答へていはく、「これは、蓬莱の山
 なり。」と答ふ。これを聞くに、うれしきこと
 かぎりなし。

※

使用しているフォントの都合で「蓬莱の山」となっていますが、正しくは「蓬莱の山」です。

問1 青線が引かれている次の【ア】～【オ】の言葉を、それぞれ現代仮名遣いに直してひらがなで書きなさい。

- 【ア】 山ならむと思ひて :
- 【イ】 よそほひしたる :
- 【ウ】 問ふ :
- 【エ】 答へていはく :
- 【オ】 答ふ :



問2 赤線「銀の金鉢」の読み方をひらがなで答えなさい。

問3 「これやわが求むる山」とあるが、「これ」がさすものを次の中から選び○で囲みなさい。

ア：人々が言っていた、蓬莱の玉があるとされている山

イ：くらもちの皇子が航海の末に探し当てた山

ウ：くらもちの皇子が玉作りの匠と閉じ籠った山

エ：くらもちの皇子が翁の家を訪れるために船から下りた山

問4 「これやわが求むる山ならんと思ひて」と「さすがに恐ろしく覚えて」の間に入るべき文章の内容として、もっとも適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

ア：うれしかったので

イ：うれしくはあったが

ウ：残念だったので

エ：残念ではあったが

問5 「二、三日ばかり、見歩くに」とあるが、くらもちの皇子がそのようにした理由として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

ア：美しい山だったので、景色を楽しむため

イ：長い航海の果てにたどりついたので、しばらくのんびりするため

ウ：蓬莱の玉の枝がどこにあるか探すため

エ：もしや何か危険なことがあるかもしれないと思ったため

問6 「これを見て、船より下りて」とあるが、くらもちの皇子が船を下りようと思った理由として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

ア：天人のよそおいをした女が美しかったから

イ：銀の金鉢のような高価な品物を見たかったから

ウ：水があると分かり、喉の渇きをうるおそうと思ったから

エ：女にこの山が蓬莱の山かどうか聞こうと思ったから



問7 くらもちの皇子が、蓬萊の山を探し当てたときの気持ちを、原文からそのまま抜きだして答えなさい。

【原文2】

その山、見るに、さらに登るべきやうなし、
 その山のそばひらをめぐれば、世の中になき
 花の木ども立てり。金・銀・瑠璃色の水、
 山より流れいてたり。
 それには色々の玉の橋渡せり。そのあたりに、
 照り輝く木ども立てり。
 その中に、この取りてまうて来たりしは、
 いとわろかりしかども、のたまひしに違は
 ましかばと、この花を折りてまうて来たる
 なり。

問8 青線が引かれている次の【ア】～【ウ】の言葉を、それぞれ現代仮名遣いに直してひらがなで書きなさい。

【ア】やうなし :

【イ】取りてまうて :

【ウ】のたまひしに違はましかば :

問9 赤線「金」の読み方をひらがなで答えなさい。



問10 赤線「瑠璃色」の読み方をひらがなで答えなさい。

問11 「さらに登るべきやうなし」の「さらに」の意味として正しいものを次の中から
選び○で囲みなさい。

- ア：全く
- イ：そのうえ
- ウ：ますます
- エ：また

問12 「それには、色々の玉の橋渡せり」とあるが、「それ」がさす言葉を原文から
そのまま抜きだして答えなさい。

問13 「いとわろかりしかども」の意味として最も適切なものを次の中から
選び○で囲みなさい。

- ア：じつは良いものではないが
- イ：少しおかしいけれども
- ウ：たいそう見劣りするが
- エ：とても申し訳ないが

問14 「いとわろかりしかども」とあるが、何が何に比べて「いとわろかりしかども」
と言っているか。最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：照り輝く木が、世の中になき花の木に比べて
- イ：この花が、金・銀・瑠璃色の水に比べて
- ウ：この花が、その中に比べて
- エ：照り輝く木が、この花に比べて



問15 「いとわろかりしかども」とあるが、くらもちの皇子がこのように話した理由として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：自分の持ってきた花が、かぐや姫の気に入るか自信がなかったから
- イ：にせものの蓬萊の玉の枝と疑われないため
- ウ：蓬萊の山にあったものの素晴らしさをかぐや姫に伝えるため
- エ：手柄を自慢するような男だと思われなくなかったから

問16 「のたまひしに違はましかばと」の「のたまひし」の主語として適切な人物を次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：くらもちの皇子
- イ：かぐや姫
- ウ：天人の格好をした女
- エ：竹取の翁



「蓬萊の玉の枝」テスト練習問題と過去問まとめ③ (解答)

問1 【ア】やまならんとおもいて

【イ】よそおいしたる

【ウ】とう

【エ】こたえていわく

【オ】ことう

【解説】「答う」は「こたう」ではないので注意しよう！

問2 しろかねのかなまる

【解説】「銀」は「しろがね」ではなく、「しろかね」なので注意しよう。

問3 イ

【解説】くらの皇子が航海の末に探し当てた山を目の前にして「これ」と言っていることから考えよう。

問4 イ

【解説】航海の末に探し当てた山は、くらの皇子が探し求めていた蓬萊の玉がある山だと思った」という内容と、「やはり恐ろしく思われて」という内容の間に入るの、「(求めていた山が見つかったのは)うれしくはあったが、(やはり恐ろしく思われて)」という内容が入るのが適切。

問5 エ

【解説】「探し求めていた山とは思っても、やはり恐ろしく思われて」という内容から、その山が蓬萊の山だという確信もなければ、何か危険なことが待ち構えているかもしれないなどと思って様子を見ていたと考えられる。

問6 エ



問7 うれしきことかぎりなし

【解説】「(さすがに)恐ろしく覚えて」も、くらもちの皇子の気持ちを表しているが、この時はまだ山が蓬莱の山かどうか分からなかったので「蓬莱の山を探し当てたとき」ではなく不正解。

問8 【ア】 ようなし

【イ】 とりてもうで

【ウ】 のたまいしにたがわましかば

【解説】歴史的仮名遣いの「あ行+う」は現代仮名遣いでは「お行+う」となる。なので、「やうなし」は「ようなし」となる。

問9 こがね

問10 るりいろ

問11 ア

【解説】古語の「さらに」は、下に打ち消す言葉を一緒に使うことで、「全く…ない」という否定の意味になる。下に打ち消す言葉がない場合は、現代と同じように「ますます」という意味になるので注意しよう。

問12 金・銀・瑠璃色の水

問13 ウ

【解説】「いと」とは、「非常に・たいそう」という意味。「わろかり(なむ)」は、「良くない・好ましくない」という意味。

問14 ウ



問 | 5 イ

問 | 6 イ

【解説】くらもちの皇子は、かぐや姫が欲しいと言っていた蓬莱の玉の枝を探しているので、「のたまひしに違はましかばと（おっしゃっていたものと違ってはと思って）」の「おっしゃる」にあたる「のたまひし」の主語は、蓬莱の玉の枝を欲しいと言った「かぐや姫」が正しい。

